

奈良県立美術館

プレスリリース／2022年07月16日

画像①

歌川芳藤

《唐の子がよりにかたまって人になる》

江戸時代（19世紀）



企画展 「美術・解体新書 奈良県立美術館所蔵名品展《夏》」 2022年7月16日（土）～8月28日（日）

展覧会の趣旨

当館では、主に中世から現代までの日本の美術工芸品約4,300件を所蔵し、展示・公開しています。これらの作品は、単に姿形が美しいというだけでなく、様々な時代や地域の歴史や文化を知る手立てとなり、作品を通して多様な感性や価値観に触れることができます。しかし一方で、美術特有の専門用語や、美の範疇では捉えきれない表現方法などにより、「美術」にはしばしば難解なイメージが付きまとい、理解や鑑賞の妨げとなっています。

「美術・解体新書」と題した本展では、当館の所蔵品・寄託品の中から選りすぐりの名品をご覧いただくと同時に、素材や技法、主題といった基本的な事柄から、制作背景や意図、意味や目的など、作品を理解する上で役に立つような知識や情報をわかりやすく解説し、その魅力と特徴を紹介します。本展が鑑賞の手引きとなり、より多くの方々に美術に親しんでいただく機会となれば幸いです。

展示構成と 主な出品作品

0 はじめにー「美術」ってナニ？

「美術」は明治時代につくられた言葉ですが、今日、その表すところは様々です。

美術とは一体何でしょう？ 本展を通じて考えてみましょう。

- ・歌川芳藤《唐の子がよりにかたまって人になる》江戸時代（19世紀）
- ・普門暁《化粧》大正7年（1918）

I 前編ー「美術」以前

今日とは異なる環境や慣習のもとで生まれた江戸時代以前の作品を中心に、日本美術と世界、宗教、文学、芸能、歴史、生活、社会の7つのテーマから展示し、素材や技法、表現といった基本的な事柄から制作背景や意図、意味や目的など、様々な視点からその魅力と特徴を紹介します。

- ・《加彩婦女俑》中国・唐時代、《洛中洛外図屏風》江戸時代（17世紀）

II 後編ー「美術」以後

「美術」とともに「絵画」「彫刻」「工芸」といったジャンルが確立し、さらに多様な価値観のもとで既存の枠組みを打ち破るような芸術活動が展開された明治時代以降の作品を、日本美術の誕生（日本画・洋画・彫刻）、展開（平面・立体）、軌跡（工芸）の3つのテーマから展示し、鑑賞のポイントを紹介します。

- ・久米桂一郎《清水秋景図》明治26年（1893） ・上村松園《春宵》昭和11年（1936）
- ・柳原義達《犬の唄》昭和36年（1961） ・富本憲吉《楽焼 草花模様 蓋付壺》大正3年（1914）

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催・会場	奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6 TEL 0742-23-3968 / FAX 0742-22-7032 / テレホンサービス 0742-23-1700 公式ホームページ http://www.pref.nara.jp/11842.htm
会期	2022年7月16日(土)～8月28日(日) 会期中、一部の作品を入れ替え展示します 前期：7月16日(土)～8月7日(日) 後期：8月9日(火)～8月28日(日)
後援(予定)	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社
開館時間 休館日	9時～17時(入館は閉館の30分前まで) 毎週月曜日、ただし7月18日(月・祝)は開館、19日(火)は休館
観覧料	一般 400(300)円、大学生・高校生 250(200)円、中学生・小学生 150(100)円 * ()内は20名以上の団体料金 * 次の方は無料でご観覧いただけます。 ・65歳以上の方、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳(アプリを含む)をお持ちの方と介助の方1名 ・教職員に引率された奈良県内の小中高校及びこれに準ずる学校の児童・生徒 なお、7/30(土)～8/7(日)の期間、県内在住または在学する小中学生は無料です ・毎週土曜日は県内外問わず、小中高生及びこれに準ずる学校の児童・生徒 ・外国人観光客(長期滞在者・留学生を含む)と付添の観光ボランティアガイドの方
交通案内	○近鉄・奈良駅 1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分 ○JR・奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車 100メートル
会期中の催し	① 講演会「デジタルで体験する美術」 講師：山田修氏(奈良県立大学 地域創造研究センター 特任教授) 日時：8月28日(日) 14時～ 会場：レクチャールーム ② 美術講座「美術ってナニ？」 講師：当館学芸員 日時：8月7日(日) 14時～ 会場：レクチャールーム ③ ギャラリー・トーク 担当：当館学芸員 日時：7月23日(土)、8月20日(土) 14時～ 会場：展示室 * ご参加には観覧券が必要です。 * ①②定員：先着50名(当日13時より当館受付にて整理券を配布します) * 状況により変更する場合があります。最新情報は当館ホームページでご確認ください。 * 新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご来館の際は検温・手指消毒などにご協力ください。
同時開催	連携展示： 龍田古道と亀の瀬 1階ギャラリー／入場無料 主催：日本遺産「龍田古道・亀の瀬」推進協議会

お問い合わせ

奈良県立美術館(広報担当：広橋 企画担当：松川)
〒630-8213 奈良市登大路町 10-6
TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032

広報用画像リスト + 作品の一言解説

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～7）をお知らせください。

◇必ず下記の**キャプション**もご掲載ください。

ただし、西暦・和暦の選択は各メディアに委ねます。

◇掲載にあたり作品部分のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

No.	画像	キャプション＋一言解説
1		歌川芳藤《唐の子がよりにかたまって人になる》 江戸時代（19世紀） 江戸の庶民文化ー 唐の子（中国の子供）をパズルのように組み合わせて女性の顔を象った、遊び心溢れる作品です。
2		《加彩婦女俑》中国・唐時代 天平時代の面影を伝えるー 文化交流の成果ともいうべき、海を渡り伝えられたふくよかな唐美人像です。
3		《洛中洛外図屏風》江戸時代（17世紀） 豪華絢爛、武将の世界ー あたかも京の市中を掌握するかのように、その全貌を大画面に収めています。
4		上村松園《春宵》昭和11年（1936） 美人画の巨匠・上村松園の真骨頂ー 春の宵、料亭の縁側で内緒話をする女性たちの姿をしっかりと描きあげています。
5		久米桂一郎《清水秋景図(山径晚暉)》明治26年（1893） 本場フランス仕込みの外光表現ー 穏やかな日差しが降り注ぐ秋の情景を点描風のタッチで軽やかに描写しています。
6		富本憲吉《磁器 赤地金銀彩徳利に椿模様 円陶板》 昭和29年（1954） 人間国宝・富本憲吉の専売特許ー 赤い地に金と銀の一輪挿しが映える洒脱な一品です。
7		普門暁《化粧》大正7年（1918） 日本の前衛美術運動のハシリー 人型を思わせる針金に彩色を施して「化粧」と題した抽象的な作品です。